

WSDN24のメインプログラム



WSDN24プログラム：災害看護の未来を切り拓く国際フォーラム

世界災害看護学会2024 (WSDN24) は、災害看護の研究者や専門家が世界中から一堂に会し、学際的な対話と新たな戦略の構築を目指す国際会議です。テーマは「学際的な対話と議論の促進」。災害看護の実践を地域社会に適用し、持続可能な未来のビジョンを共有します。

仙台防災枠組やバンコク宣言の7つのコミットメントを基に、2030年以降の進捗を評価し、災害リスク軽減と健康回復力の向上を目指した政策提言が行われます。本会議は、地域知識とグローバルな知恵を融合させ、実行可能なソリューションを提供するプラットフォームとなることでしょう。

会場：神戸市看護大学

日程：2024年11月30日(土)～12月1日(日)

会場: 神戸市看護大学 地図

ウェブサイト: [Website: https://wsdn2024.com/](https://wsdn2024.com/)

メインセッション 1日目 11月30日(土)

神原咲子 大会長挨拶

神戸市立看護大学の神原咲子氏が「変化するリスク状況における災害看護の再考」というテーマで概要を説明し、開会の挨拶を行います。この挨拶では、プラネタリーヘルス、人間の安全保障、地域社会の回復力を促進する上で災害看護が果たす重要な役割に焦点を当てます。

災害看護の歴史的発展と仙台防災枠組のような国際的な枠組みへの統合を振り返りながら、学際的な協力、革新的な教育、人中心のアプローチの必要性を強調します。この開会の挨拶を通じて、参加者が持続可能な健康と災害リスク軽減のための実行可能な戦略を思い描ききっかけとなることを目指します。



現神戸市看護大学教授。1996年より神戸在住。神戸大学で保健学の学士号と修士号、岡山大学で博士号を取得し、グローバルヘルスと災害看護を研究しています。兵庫県立大学と高知大学の研究員としても活動し、アジア諸国における災害復旧とリスク軽減のコミュニティケア実践者として高く評価されています。神原氏が設立したEpiNurseは、2017年国連防災世界会議においてリスクアワードを受賞しました。2018年には、彼女の故郷である西日本が豪雨災害で大きな被害を受けた際、ボランティア、関係者、地方自治体と緊密に連携して復旧活動に取り組みました。今回は2024年に神戸で開催される世界災害看護学会議の議長を務めます。

基調講演:

西垣淳子「能登から世界への災害看護へのメッセージ」

西垣淳子氏は、前石川県副知事、現経済産業省(METI)の役職を活かし、ガバナンス、政策立案、災害対応に関する豊富な専門知識を共有し、特に最近の能登半島地震に関する貴重な見解も共有される予定です。講演では、災害データ管理、経済活性化、人を中心とした復興の接点についても掘り下げていきます。グローバルな災害看護のための実行可能な戦略に焦点を当てることで、持続可能で公平な未来を築くための協力的なアプローチを提案いたします。



西垣淳子氏は、1991年に通商産業省(現・経済産業省)に入省し、バイオ・化学産業政策や女性・子育て支援などに従事しました。2024年1月1日に発生した能登半島地震の際には、石川県副知事として地域経済政策、産業振興、人中心の支援の推進に重要な役割を果たしました。

特別講演:

南裕子「災害看護から災害看護へのメッセージ」

看護教育、政策、リーダーシップにおける先駆者として、30年にわたるキャリアを振り返りません。兵庫県立大学看護学部初の看護学部長、そして第25代国際看護師協会会長として、南氏は災害や健康危機における看護の役割に関するグローバルな議論を形作ってきました。講演では、災害看護の歴史を紐解き、教育、政策、学際的な連携を通じてこの分野を発展させるための知恵とインスピレーションをお話いたします。



南裕子氏は、著名な日本の看護リーダーであり教育者。1942年生まれ、30年以上にわたる日本の看護の発展に貢献し、教育、サービス、研究の分野で優れた業績を残してきました。大学教員になる前はスタッフ看護師としてキャリアをスタートさせ、公立大学法人兵庫県立大学看護学部では、初の看護学部長に就任しました。また、厚生労働省や文部科学省の委員を歴任し、保健・看護教育政策に影響を与えました。2005年から2009年まで国際看護師協会(ICN)の第25代会長を務め、1999年から2005年までは日本看護協会の会長を務めました。

セッション1: パネルディスカッション「災害リスク軽減(DRR)のためのキャパシティビルディング」:

このセッションは、Fu-Chih Lai氏が司会を務め「災害リスク軽減(DRR)のためのキャパシティビルディング」という重要なテーマについて深掘りしていきます。緊急医療と災害看護能力の権威であるAlly Hutton教授をはじめとする著名なパネリストを迎え、効果的な災害対応に必要なスキルについて議論します。Hutton教授の国際的な貢献、例えばICN災害能力の開発などは、地域や国家、さらには国際レベルでの看護能力を高める戦略を探るうえでとても重要です。このセッションでは、さまざまな専門家の洞察を紹介し、災害に備えるための医療システムの強化に向けた革新的なアプローチについて活発な議論が展開される予定です。

Moderator: Fu-Chih Lai

Panelists: Ally Hutton, Yungyong Jeon, Yen Chin Chen, Michael Ewers, Mariko Ohara

Ally Hutton



Ally Hutton教授は、計画的な大規模集会や予期せぬ災害など、さまざまな重大事象における緊急医療に重点的に取り組んでいます。長年にわたり、国際看護師協会(ICN)や世界保健機関(WHO)と協力し、2015年には災害対応能力の国際的な見直しを主導しました。2019年には、ICN災害対応能力の改訂に携わり、2023年には「看護師のための災害対応能力(第2段階および第3段階)」の開発に貢献しました。

セッション2: パネルディスカッション「防災におけるリーダーシップと学際的連携」

Sheila Bonito 氏を司会に迎え、「防災におけるリーダーシップと学際的連携(DRR)」について パネルディスカッションを行います。持続可能性とレジリエンスの分野で世界的に知られるリーダー、日本政策投資銀行副社長の蛭間芳樹氏を招き、リーダーシップとセクターを超えた連携が、効果的な防災活動を推進する上でどのような役割を果たすかについて考察します。国連 防災戦略事務局(UNDDR)、世界銀行、世界経済フォーラムなどの国際機関での豊富な経験を基に、気候変動や災害の課題への対応に必要な多様な視点を持つことの重要性について議論します。このセッションではレジリエンスや適応能力を高めるための革新的な学際的アプローチについて、著名なパネリストたちとともに掘り下げていきます。

蛭間 芳樹氏



株式会社日本政策投資銀行 副社長執行役員、SkyDrive株式会社 取締役。2009年東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻修了後、2020年スタンフォード大学専門能力開発センター戦略的持続可能性マネジメント修了。ホームレスワールドカップ日本代表チーム「野武士JAPAN」ボランティアヘッドコーチ(2009年～)、ビッグイシュー基金理事(2010年～)をつとめています。内閣府、政府、G20気候変動適応と強靱なインフラ、世界銀行気候・災害レジリエンス、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)、世界経済フォーラムグローバルリスク、等のメンバー。受賞歴: ユースリーダー(2013、開発協会ユースリーダーズ; 世界経済フォーラム(2015)ヤング・グローバル・リーダー、等。

Moderator: Sheila Bonito

Panelists: Yoshiki Hiruma, Bista Parvati, Ladylyn Mangada, Sonoemi Masuno

セッション3: 口頭発表「災害の最前線からの報告」

このセッションでは、世界各地の災害現場からの生の声や重要な洞察を共有するため、多様なプレゼンターが登壇します。Seunyoung Joe氏は大規模集会における災害看護の役割について、田中香苗氏は日本の過疎地域のコミュニティ再建について、Sushina Paudel氏はネパール・ジャールカンド地震の教訓について分析します。さらに、池田載子氏はパレスチナ赤新月社の医療協力における課題について、Ping Hsu Tu氏は2004年3月花蓮地震での経験について、高原美貴氏はシリアでのケーススタディを交え、長期にわたる危機における地元NGOの能力開発について発表します。

Speakers:

Seunyoung Jo, Kanae Tanaka, Sushila Paudel, Noriko Ikeda, Ping Hsu Tu, Miki Takahara

セッション4: 口頭発表「教育とトレーニングにおけるイノベーション」

このセッションでは、シミュレーションを活用した技能訓練、学際的なアプローチによるカリキュラム設計、医療従事者のリーダーシップとレジリエンスを育む戦略などに関する発表があります。教育が災害シナリオにおける新たな課題にどのように対応し、医療従事者が効果的に対応するための能力をどのように身につけるかについて掘り下げていきます。理論と実践をつなげるための最先端の洞察を学び、次世代の災害対応者を育てるためのイノベーションの重要な役割を見ていきます。このセッションは、世界中のコミュニティの進化するニーズに応えるために、災害看護教育のあり方を再考するきっかけとなることを目的としています。

講演者:

Guy Collins, Holing Zheng, 高山良光, Qin Hu, Nurul'ain Binti Somjinda Shompunud

ワークショップ:

災害看護、医療イノベーション、危機管理に焦点を当てた7つのワークショップ。詳細は[こちら](#)のプログラムをご覧ください。

日程: 2024年11月30日、12月1日

ポスターセッションのライトニングトーク:

15のセッションで、さまざまな国々から150以上のライトニングトークが発表され、過去の災害研究と実践から得られた教訓について議論します。(抄録集)

日程: 2024年11月30日、12月1日

メインセッション2日目(12月1日土曜日)

セッション5: 口頭発表「災害における医療システムの回復力」

このセッションでは、第一線で働く保健師の重要な役割や、気候変動が医療システムに与える影響、感染症対策における組織の回復力について取り上げます。また、医療従事者の文化的適応能力、仕事に対する満足度、医療施設における備えについても触れます。このセッションを通して、災害シナリオにおける医療システムの適応力や強靭性を高めるための実践的なアドバイスを提供することを目的としています。

スピーカー:

Suryane Sulistiana Susanti, Hsin-I Shih, Chou-Ping Chiou, 加古まゆみ, Minji Kim, Miriam Peters

セッション6: パネルディスカッション「データ管理と可視化による災害リスク軽減」

このセッションでは、「災害リスク軽減(DRR)のためのデータ管理と可視化」について、備えや回復力を強化する可能性を探ります。次世代基礎政策研究機構の森田朗氏やKDDI総研の三浦瑞貴氏など、第一線の専門家が参加し、災害シナリオにおけるデータ収集、分析、可視化のための最先端の手法やツールについて議論します。東京大学の菅野太郎氏、聖隷クリストファー大学の小池武嗣氏、そして国立研究開発法人防災科学技術研究所(NIED)の花島誠人氏もパネルに参加し、防災戦略に技術をどう活用していくかを多角的に議論します。

リアルタイムのデータ可視化、地理情報システム(GIS)、AI駆動型分析などの革新的な応用について掘り下げ、これらのツールが意思決定を支援し、コミュニティの関与を深め、危機時の柔軟な対応を促す方法を検討します。参加者は、データを実行可能な戦略に変えるために必要な学際的な協力の重要性について理解を深め、最終的にはより強靱なコミュニティ構築への貢献を考える機会となるでしょう。

モデレーター: 森田朗

パネリスト: 菅野太郎、花島誠人、小池武嗣、三浦瑞貴

セッション7: ラウンドテーブル・ディスカッション「政策提言に向けて」

このセッションでは、災害看護および災害リスク軽減(DRR)を推進するための主要な洞察をまとめ、実行可能な戦略を考える場を提供します。神原咲子氏と茅野龍馬氏の司会のもと、政府関係者、政策立案者、学術連携団体の代表者など、さまざまな分野から著名なパネリストを迎えて議論を行います。

本セッションの目的は、政策のギャップを埋め、学際的な連携を促進し、グローバルな災害リスク軽減の枠組みを強化することです。また、会議全体を通じて得られた知識を統合し、政策提言に結びつけます。ディスカッションでは、地域社会の参加やケアの実践への技術統合といった災害看護の重要なテーマを取り上げるとともに、仙台防災枠組みや持続可能な開発目標(SDGs)に沿った内容となる予定です。

最終的には、災害看護が持続可能で強靱な社会を実現するために果たす重要な役割を強調する政策提言をまとめることを目指します。このセッションを通じ、健康上の緊急事態や災害リスク管理を推進するためのロードマップを示し、ステークホルダー間の協力を促す具体的なステップを議論します。

司会:

神原咲子、茅野龍馬

パネリスト:

新福洋子、Yudi Ariesta Chandra、Rajib Shaw 他

新福洋子氏



新福洋子氏は、助産学の著名な研究者であり、現在、広島大学大学院医系科学研究科の教授を務めています。聖路加看護大学を卒業後、助産師として勤務し、2010年にイリノ

イ大学シカゴ校看護学研究科で博士号を取得しました。その後、2011年に世界保健機関(WHO)東南アジア地域事務局でインターンを経験し、2012年には聖路加国際大学の助教に就任しました。2018年には京都大学大学院医学研究科の准教授を経て、2020年から現職に就いています

阿部圭史氏



新福氏は、日本学術会議若手アカデミーの副代表や、世界の若手科学者団体である Global Young Academyの執行委員も務めています。また、IAP総会、STSフォーラム、G7 およびG20アカデミー会議などの政策提言セッションに参加し、日本の首相に提言を行うなど、積極的に活動しています。さらに、2020年にはWHOから「世界の卓越した女性の看護師・助産師リーダー100人」に日本から唯一選出され、その功績が国際的に認められています。

Rajib Shaw(ラジブ・ショウ)氏

日本の慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科の教授。デリーを拠点とする社会起業家スタートアップ企業「Resilience Innovation Knowledge Academy (RIKA)」の共同創設者であり、国連科学技術諮問委員会(STAG)の災害リスク軽減委員長を歴任。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第2作業部会アジア支部の執筆責任者を務めました。専門分野は、災害リスクガバナンス、都市のレジリエンス、適応、そして新たな災害・気候変動技術の開発と応用。2021年には、教育分野での貢献が評価され、インド大統領からプラヴァーシ・バーティヤ・サムマン賞(Pravasi Bhartiya Samman Award: PBSA)を受賞。さらに、2022年には災害リスク軽減における生涯功績および世界的な災害レジリエンスイニシアティブへの貢献が認められ、国連笹川賞を受賞しました。



カフェテリアのネットワーキングラウンジ

「日本のホスピタリティによるグローバルなつながり - おもてなし - 」

このネットワーキングラウンジでは、災害看護の研究者、医療従事者、世界中の関係者とつながる貴重な機会を提供します。このスペースは、災害への備えと医療分野における社会的価値の創造に焦点を当てつつ、意味のあるコラボレーションを生み出すことも目的としています。また、日本の伝統的なおもてなしの精神に満ちた文化を感じながら、伝統的な茶道、生け花、書道を体験できる機会もあり、静かでくつろいだ環境でネットワーキングを楽しんでいただけます。メインセッションの参加者、特別招待者、支援組織の代表者にご利用い

ただけるラウンジでは、皆様により豊かな体験をお届けできるようきめ細やかなおもてなしをご用意しております。

スケジュール:

昼食: 午前11時30分より

休憩: 午後3時より

文化体験: 午後2時~4時

レセプション: 午後5時20分より

このスペースで、より深い話をしたり、新たなパートナーシップを見つけたり、日本の豊かな文化を楽しみながら、災害対策と医療の未来を形作っていきましょう。

Sponsored by

SWIFT Xi (Swift Xi)

Swift Xi Inc. (スウィフト・エクスアイ)は、日本の神戸に本社を置く先進的な航空宇宙工学企業です。2018年にSwift Engineering(米国)と神戸情報大学院大学のパートナーシップにより設立されました。同社は、自律型ロボティクスや高度なデータソリューションを専門とし、VTOLDローンのリース、データ分析、ソフトウェア開発、航空宇宙および自動車工学のコンサルティングといった最先端のサービスを提供しています。

代表取締役会長兼CEOのヒロ松下氏とCOOのニック・バルア氏の指揮の下、Swift Xiはデジタルインフラへの貢献やロボティクス技術の革新的な応用により、国際的な評価を獲得しています。本イベントの協賛企業として、Swift Xi Inc.は、災害対応力の向上や技術革新を通じて持続可能な未来の実現を支援します。

お問い合わせ

詳細は必要に応じて公式ウェブサイトを更新されます。

WSDN [2024公式ウェブサイト](#)

連絡先: 内山貴子、藤田さやか

メール: wsdn2024jimukyoku@gmail.com